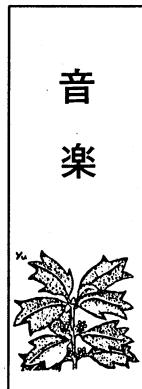


三 体力の向上に努める

- (一) 学校教育活動全体を通して体育活動の組織化を図り、運動の生活化を促すよう努める。
- (二) 体力つくりの意義と方法について理解させ、実践させるよう努める。
- (三) スポーツテストを実施し、生徒一人一人の体力・運動能力に応じた適切な運動処方を工夫する。
- (四) 施設・用具の活用を図るとともにその整備拡充に努める。



指導に当たっては、生徒の実態及び学校の実情に応じて、各領域の指導内容の精選と重点化を図るとともに、指導法の改善・充実に努め、教師自らが音楽芸術の持つ底知れぬ深さ、美しさに着目し、広い視野に立って生徒一人一人が心から真の音樂美にふれる指導が望まれる。

- (一) 歌唱指導においては、視唱力を的確に身につけるとともに、樂曲の持つ樂趣にあつた適切な表現ができる。生徒一人一人が生き生きと主体的に授業に参加できる指導の改善に努める。
- (二) 表現・鑑賞の能力を高める指導

指導に当たっては、生徒の実態及び学校の実情に応じて、各領域の指導内容の精選と重点化を図るとともに、指導法の改善・充実に努め、教師自らが音楽芸術の持つ底知れぬ深さ、美しさに着目し、広い視野に立って生徒一人一人が心から真の音樂美にふれる指導が望られる。

芸術的な能力を伸ばし、創造の喜びを味わわせることに重点をおいて學習指導を行うことが大切である。そのため、芸術は常に具体的、かつ実践的な學習を中心に行われるもので、その経験を生かし「明るく豊かな生活」ができる基本的な態度や習慣を養うことができる。更に芸術が「人間性の回復」と調和のとれた人間」及び「文化の発達・発展」に寄与することの大いことを認識させることも大切である。

芸術の學習は造形的創造活動による美的體験であり、表現と鑑賞の學習をヨンの奏法が身につく指導に努める。には、音楽の諸活動を通して音楽の創作指導においては、創造性の伸長を図る

美しさ、楽しさ、喜びなどの感動的な體驗を基盤として、興味・関心を喚起し、読譜力、聽取力等の基礎的な能力を高める指導に努める。

- (一) 生徒の実態、学校・地域の実情等を十分に把握するとともに、実態に応じた指導計画や、指導のねらいを明確にして教材の精選を図り、基礎的な指導がゆとりある學習活動の中で、効果的に深化が図れるように努める。

(二) 音楽の諸能力を的確に身につけるには、教師中心の授業だけではなく、生徒自らが音樂のなりたち、くみたて等に気付き、創造的に音樂の表現ができるような指導の手立てが必要である。生徒一人一人が生き生きと主体的に授業に参加できる指導の改善に努める。



長と創作の過程が指導の中心であり、生徒の実態に応じた効果的な指導法を工夫する。

一 表現や鑑賞についての學習指導の一研究を深める

- (四) 鑑賞指導においては、表現活動と関連を密にして、教材を精選し、音楽の持つ美しさや楽しさの中でも、眞の感動を得させるよう心がける。

(五) 日本の伝統音楽や郷土の音楽については、中学校の共通教材との関連を図り、日本の音楽の生成した背景を理解させるとともに、その美しさが感覚的にも感得できるようにする。

(一) 目標を明確に設定すること
教材の研究・開発につとめるとともに、生徒に、どの教材を、どんな方法で、どの程度学ばせ、どんな能効力を伸ばしてやるのか、教材の性格や生徒の実態に応じた具体的な目標を設定し、指導の効果を高めるよう配慮しなければならない。また、生徒一人一人が充実した學習ができるよう到達目標を設定してやることも大切である。

(二) 學習過程を最適化し、効率化する
學習内容を生徒一人一人の興味・関心・適性に合つたものとするため、學習活動を分析し、組織し直すといふことも必要であり、よりきめ細かい教授・學習ができるよう検討すること、また、多様化している生徒の実態を把握し、生徒一人一人が意欲的に學習ができる授業形態を研究することも必要である。

(三) 教育機器の活用
指導計画の作成に当たっては、視聴覚教材の位置づけを明確にし、効果的な授業が展開できるよう、具体的な研究が必要である。

(四) 評価の方法を研究する。
評価で最も重視したいことは、教師は指導計画や指導法の改善、教材の有効性の吟味等に役立て、生徒に